

特集 夏休み中の”SDGs”



木工教室



地域の木工の職人たちの指導のもと、木製の椅子づくりに挑戦しました。木材を「切る」「削る」釘を「打つ」などといったものづくりに不可欠な動作を学ぶとともに、自分で製作した作品に愛着を持つことで、椅子を長く愛用してもらいたい、「つくる責任」と「つかう責任」の自覚から、ものを大切に扱う心が養われました。



生木を使った色鉛筆づくり



垂井町の森林に親しんでもらうため、岩手地区の山で収集した生木を材料として、手作りの色鉛筆づくりを、NPO法人グリーンウッドワークの協力を得て実施しました。親子で協力しながら生木の中心に穴をあけるなど、自然のもので作る楽しさや魅力を体感し、身近な自然とのふれあいを通じて、垂井町の森林に興味を持つきっかけとなりました。この講座を通じて「森林を知る」ことが、わたしたちの周りにある自然環境への気配りや、森林の保護や整備の活動へつながると考えています。



私たちにできること

- 再利用した製品を買う・使うようにする。
- 身の回りのものすぐに捨てず、できるだけ長く使うようにする。
- 生き物の住みかや自然を破壊するようなことはしない。

受講した子どもたちの声 /

- SDGsは、5年生の時に学びました。今回改めて学んで、節電するなど、普段の自分の生活を見直そうと思いました。
- 私たちは、垂井の自然にかこまれて暮らしています。今回、垂井の山の木で色えんぴつを作って、自然のおもしろさにワクワクしました。これからも自然大切にしたいです。
- 初めて自分で釘を打って椅子を作りました。椅子が完成したときはすごくうれしかったので、いつまでも大切に使いたいです。

自分」として考える
「SDGs」という言葉を聞いて、「難しい」というイメージを抱いたり、「自分には関係ない」と思っているかもしれません。しかし、「SDGs」は世界を変え、そのための壮大な目標で、その実現には、世界が力を合わせることが必要です。目標を達成するためには、日々生活で簡単に取り入れられるものもあります。例えば、世界の環境問題や生態系について知る。オンラインサービスを活用する。食事を残さずに食べるなど、ソファで寝て過ごすことで、最終的には目標を達成することにつながるのであります。こうした小さな行動を多くの人が取り組みには、日常生活で簡単に取り入れられるものもあります。

「SDGs」は世界で、その実現には、世界が力を合わせることが必要です。目標を達成するためには、日々生活で簡単に取り入れられるものもあります。例えば、世界の環境問題や生態系について知る。オンラインサービスを活用する。食事を残さずに食べるなど、ソファで寝て過ごすことで、最終的には目標を達成することにつながるのであります。こうした小さな行動を多くの人が取り組みには、日常生活で簡単に取り入れられるものもあります。

企画調整課 地域振興係 ☎22-1152

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

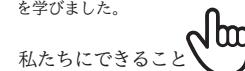


今夏もコロナ感染症の影響で、地域の行事などが縮小・中止される中で、子ども達にとっては、さまざまな”体感”ができる夏休み。この夏休み期間中に開催された「子ども講座」にフォーカス（焦点）し、普段なかなか気づかない私たちの生活の中の身近なSDGsとの関わりを紹介します。

SDGsとでんき



でんきの科学館による学習プログラムを用いて、日常生活の中で「自分たちが電気に何不自由なく生活ができているのか」「発電方法にはどんなものがあるのか」「もしも電気のない世界だったら」などについて考えたあと、実際に豆電球を手動で光らせる体験をして、電気のある生活のありがたみや、発電の大変さを学びました。



私たちにできること



ソーラーパネルで車を走らせよう！



県地球温暖化防止活動推進センターの協力のもと、地球温暖化について学び、どうして温暖化が進むのか、どうすれば温暖化を止められるのかを考えました。

温暖化を進めないための方法の一つとして、ソーラーパネルを用いたミニソーラーカーを自分たちで作って、走らせて走らせて温暖化に対する関心と、温暖化に対してどのように取り組んでいくべきかを学びました。

- 不要なコンセントは抜くなど、節電に心がける。
- 近くに出かけるときは、自転車や歩く、公共交通機関を利用する。
- 電気の消費や、二酸化炭素を排出しない製品を使用する。
- リサイクル可能な製品を使用し、ごみを出さないようにする。